

新刊紹介

コペルニクス

広瀬秀雄著

新書版, 192 ページ, 280 円, 40 年 5 月, 牧書店, 世界思想家全書の一冊.

先年, 岩波新書「太陽よ, 汝は動かす」を読んで面白く思ったが, これがコペルニクスの伝記を中心としているの対し, 広瀬さんの著書は学説を中心にしており, 全く別の特色を持っている. ギリシャの天動説から説きおこし, コペルニクスの学説に及び, ことに主著「天球の回転について」の本文を訳出する. この訳文が全体の 2/5 を占めている. そのあとには地動説がヨーロッパと日本でどのように受けとられたかを述べる. 詳しい注釈があり, なかなかの労作である. それに広瀬さん一流の明快さが, 読者を楽しませる. コペルニクスの主著にはオシアンデルの序文があって, それには地動説が現象を説明するための仮説にすぎないと述べた. コペルニクス自身が果して同じ立場であったか, 反対に地動説を真理として確信したかどうかは, これまでしばしば議論されてきたが, 広瀬さんは後者の説を支持し, 前者の説をばなはだ明快に論駁している.

広瀬さんがコペルニクスの全訳を完成するよう提案されているのに, 私は全面的に賛成する. 現代語の完訳としてはドイツ訳(それも不満なものらしい)だけで, 日本の学者はもちろん, 欧米の学者でも通読研究した人は稀であるらしい. そのためにコペルニクスの学説には誤解が多い. 手許にある創元社刊の自然科学史には, プトレマイオスの天動説では 80 以上の球(円とすべきであろう)を組合せる必要があることを述べたあとで, コペルニクスが「太陽を中心とする 34 の球で見事な体系をつくりあげたが, それはまたプトレマイオスの体系よりも精確に観測事実を説明した」としているが, これは全くのウソである. 実際はプトレマイオスの体系よりも複雑になり, 観測事実の説明についても天動説とほとんど変わりがなかったようである. A. Koestler: the Sleepwalkers をみると, 天文学者の H. Dingle も 80-34 という誤りをやっていること, 実際に Koestler が調べたところでは, 天動説の 40 個から地動説の 48 個に増えていることが指摘されている. 原典を読むという仕事は, 地味で苦勞が多い. しかしこうした着実な仕事があれば, 天文学史は育たない. 広瀬さんの好著からは, こうした着実な研究を育てようという強い意向が汲みとられる.

(藪内 清)

特別展——日本の天文暦学の先駆者

渋川春海展

国立科学博物館では, 日本天文学会, 日本科学史学会の共催をえて, 渋川春海没後 250 年を記念して, 特別展を開催する. 期間は来る 9 月 12 日(日)より 10 月 24 日(日)で, 場所は 1 号館 3 階特別陳列場である. 開館は毎日(月曜日を除く)9 時より 16 時 30 分まで. なお, 期間の 9 月 19 日(日), 特別講演会を開く予定.

この特別展は, 春海一人の資料ばかりでなく, 春海が日本の天文暦学の先駆者として活躍した時代から, 現代に至るまでのわが国の天文暦学の変遷の概観がわかるように陳列を計画した. その計画はおよそつぎの通りである. 実際の陳列品では多少の変更があるかもしれない. ○印は春海の著作または製作, ×印は春海が参考にしたと思われるもの.

春海の系図, 年譜.

1. 春海の生活環境を示すもの.

- 春海の基譜.
- ^{たまはに}瓊茅拾遺(神道の書物).

2. 暦算学

- ×日月会合算法.(今村知商, 1642 年)
- 長慶宣明暦算法(安藤有益, 1663 年).
- ×古暦便覧大全(吉田光由編, 1673 年).
- 授時發明.(関孝和述, 1680 年)
- 今村知商の算法書.
- 関訂書.
- 算木, そろばん.

3. 星 図

- ×南宋天文図(渡辺敏夫蔵).
- ×洪武天文図(京大蔵).
- 天象列次之図(秋岡武次郎蔵, 1670 年).
- 天文分野之図(渡辺敏夫蔵, 1677 年).
- 天文成象図(同上, 1699 年).
- 天球図(東京国立博物館蔵).
- 星図(井口常範作), (神田茂蔵).

4. 天球儀・地球儀など.

- 天球儀(神宮徴古館, 神田 茂, 細川護立, 本館蔵).
- 天体儀(東京国立博物館蔵).
- 天球儀, 地球儀(松浦史料博物館蔵).
- ×リッチの世界地図(京大蔵).

5. 観測器具など

- 八尺の表(模型).
- 百刻環(模型)
- 漏刻, 水時計(西洋), 日時計, 和時計.
- 「クワダランティ」(木製, 秋岡武次郎蔵).
- 渾天儀(仙台市立博物館蔵).